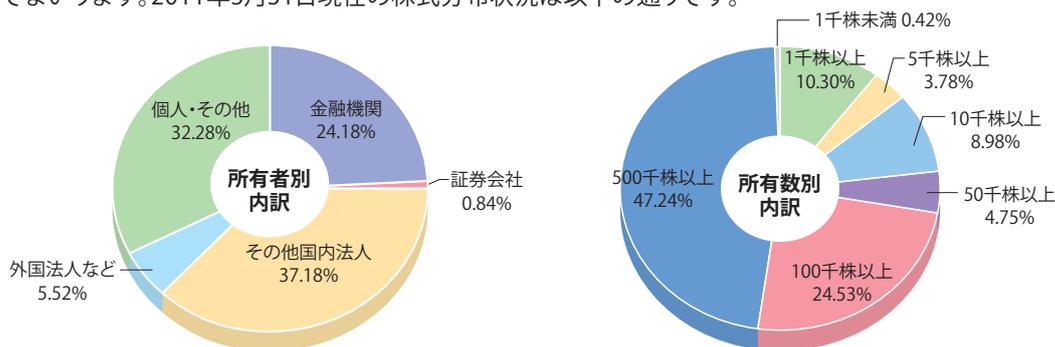


株主・投資家の皆様とともに

株主・投資家の皆様に対して、適時・適切で公平な情報公開に努め、積極的な対話を心がけていきます。

株主の状況

2011年3月31日現在の株主数は2,694名で、前年同期比97名増加しました。2010年12月1日より単元株式を1,000株から100株に引き下げ、投資家の皆様にとってより投資しやすい環境を整えることができました。今後も投資家の皆様から魅力ある企業として評価していただき、多くの株主の皆様からご支援いただけるよう取り組んでまいります。2011年3月31日現在の株式分布状況は以下の通りです。



情報開示

投資家の皆様当社グループへの理解を深めていただくために、企業情報や財務情報をはじめ、製品開発や事業展開に関する最新情報を当社ホームページに掲載しております。今後も積極的な情報開示とIR活動に努めてまいります。

剰余金の配当等に関する基本方針

株主の皆様への配当につきましては、安定した配当を継続して実施するとともに、将来の企業価値向上による株主利益の増大を目指しております。また、経営基盤の強化や積極的な事業展開に備えた内部留保の充実にも努めるとともに、業績動向、配当性向を勘案して実施しています。

株主総会

株主総会は、「開かれた、わかりやすい株主総会」であること、また株主の皆様からご意見を頂戴する機会であると捉えて、次のような取り組みをしています。

- 2005年から環境保護活動の一環として、環境省が提唱するクールビズを毎年6月～9月(2011年は5月～10月)に実施し、定時株主総会においても当社関係者は上着とネクタイを着用しない軽装で株主の皆様をお迎えしております。
- より多くの株主の皆様にご出席いただけるように、3月決算株主総会の集中日を避け2011年6月28日に開催いたしました。会場に大型スクリーンを2基設置し、事業報告などを映像とナレーションで行うなど、わかりやすさに重点を置いた運営をしています。また、会場の非常口の案内を映像などにより行うなど安全面にも配慮しています。
- 株主懇談会を開催し、株主の皆様のご意見を直接頂戴するなど、当社役員との交流を深めていただく機会を設けております。
- 株主懇談会終了後は、工場視察を希望される株主の皆様を加古川製造所へご案内し、当社をより身近に感じていただきながら、当社の技術や環境への取り組みに理解を深めていただいています。



第69期定時株主総会の会場



株主総会終了後に株主懇談会を開催しました。

お客様とともに

ハリマ化成は、お客様が満足していただける製品とサービスを提供するため、国際規格「ISO9001」の運用により品質管理の強化を実施するとともに、お客様への情報発信を積極的に行っています。

品質向上のための取り組み

第25回「松籟の日」記念式典開催 2010.7.16

「松籟の日」は1982年に創業者である故 長谷川末吉名誉会長が、当社の基盤となった「トール油の精製および誘導体製造技術の育成」で、科学技術庁（現：文部科学省）より科学技術功労賞を受賞されたことを記念して制定されました。優れた研究開発こそが当社が持続的に発展していくための糧であり、全社員がその重要性を再認識するために科学の日として定められています。



記念講演をされる岩本正和教授



挨拶される長谷川社長



表彰式

記念式典では長谷川社長より「当社が伸びていくため国際化を推進する一方で、海外でも通用する技術開発を進め、故名誉会長の願いであった『技術に生きる』を標榜する会社であり続け、科学技術に優れた功績を残して欲しい。願わくば故名誉会長の私財から捻出している賞金のお金がなくなる時期が早く来て欲しい。また、サイエンスという視点から意義がある研究成果の評価について見直していく」との挨拶がありました。

記念講演では、2010年度紫綬褒章を受章された東京工業大学フロンティア研究機構の岩本正和教授による「固体触媒科学からバイオリファイナリーへ（発想と挑戦）」と題し、ナノメートルサイズの微小空間を使った新しい触媒プロセスの話とともに、バイオマス資源の有効活用に向けた研究の話をしていただきました。

品質問題の対応

毎年11月の品質月間においては、「品質月間」の垂れ幕の掲揚およびポスターの掲示などで啓蒙活動を行うとともに、従業員に対して品質に関する勉強会を実施しています。2010年度は2009年度及び2010年度におけるクレーム等の発生状況の説明を行いました。又、「よくわかる品質管理入門」ビデオ研修を行いました。



品質月間勉強会2010.11.30

品質マネジメントシステム

当社は、品質保証体制を整えるため国際規格ISO9001の認証を取得し、継続的に活動しています。

企業にとって役に立つISO9001とは、経営者が方針・目標を設定し、その事業活動の状況を内部監査し、それを評価し、見直し会議で検討し、方針・目標へ反映するPDCAを回すことです。企業にとって役立つISO9001とするために内部監査のレベルアップをめざしています。

ISO9001認証取得状況

ハリマ化成株式会社

会社名	登録年月	認証機関
加古川製造所・中央研究所	1998年 6月	JCQA
北海道工場・営業所	1999年 6月	JCQA
仙台工場・営業所	1999年 6月	JCQA
茨城工場	1999年 6月	JCQA
筑波研究所	2002年 4月	JCQA
東京工場	1999年 6月	JCQA
東京営業所	1998年 6月	JCQA
富士工場・営業所	1999年 6月	JCQA
名古屋営業所	1998年 6月	JCQA
大阪営業所	1998年 6月	JCQA
四国工場	1999年 6月	JCQA
四国営業所	1998年 6月	JCQA
九州営業所	2008年12月	JCQA

国内子会社

会社名	登録年月	認証機関
ハリマエムアイティ株式会社	1998年 6月	JCQA
株式会社セブンリバー	2000年 2月	JCQA
ハリマ化成ポリマー株式会社	2011年 1月	JCQA

海外子会社

会社名	登録年月	認証機関
杭州杭化播磨造紙化学製品有限公司	2006年 4月	CQM
杭州哈利瑪電材技術有限公司	2004年10月	CQM
南寧哈利瑪化工有限公司	2009年 5月	CNAS
ハリマテック マレーシア SDN. BHD.	2005年12月	BVQi
ハリマテック INC.	2006年 2月	UL
ハリマ・ド・ブラジル・インダストリア・キミカLTD.A.	1999年10月	FCAV

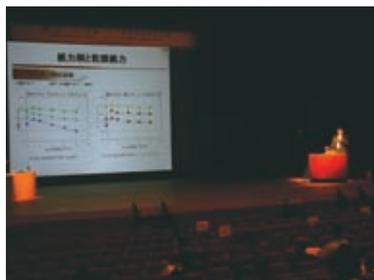
●Topics 2009年度に国内子会社となったハリマ化成ポリマー株式会社は、ISO9001の認証を取得しました。

展示会などを通じて、お客様と積極的にコミュニケーションを図っています。

お客様への情報発信

「2010年紙パルプ技術協会年次大会」にて講演、展示
製紙用薬品事業部 2010.10.6~8

講演会では、当社の製紙用薬品事業部技術開発部開発課課長、稲岡和茂が「省資源化に向けた板紙の抄紙（トータルウェットエンドシステムと塗工剤処方による構築）」と題して講演を行いました。

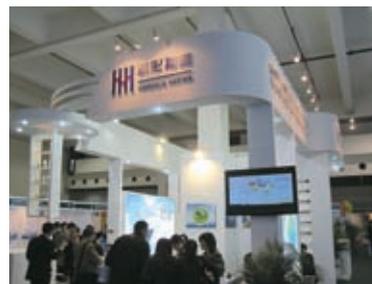


講演を行う稲岡和茂課長

展示会では、講演内容や「高灰分紙（炭酸カルシウム高配合紙）用アニオン性表面サイズ剤ハーサイズLX-300」などに関する展示、説明を行い、多くの来場者に興味を示していただきました。

「中国国際水処理化学品、水溶性高分子、製紙用薬品、工業界面活性剤技術応用展示会」に出展
製紙用薬品事業部 2010.11.3~4

今回の出展企業数は、欧米の大手化学メーカーや日系メーカーを含めて、前年の約1.5倍にあたる145社で、各社がそれぞれ工夫を凝らしたブースで自社商品のアピールを行いました。



杭州杭化播磨造紙化学品有限公司ブース

当社は、環境対応商品としてポリアクリルアミド系内添紙力増強剤と表面紙力増強剤、紙にサイズ効果を付与する新規表面サイズ剤などをメインとした出展を行いました。

「新機能性材料展2011」に出展

樹脂・化成部品事業部、中央研究所、筑波研究所 2011.2.16~18

この展示会では、環境、情報、エレクトロニクス、エネルギーなど多岐にわたる分野に関連した新素材、新技術が紹介され、「nanotech 2011 国際テクノロジー総合展・技術会議」など8つの展示会との併展により、会期中46,000人を超える入場者数を記録しました。当社は、樹脂・化成部品事業部より防曇性、耐指紋性、キズ復元性、バーコード性などの複合機能を備えた「親水型機能性コート剤」などを出展しました。

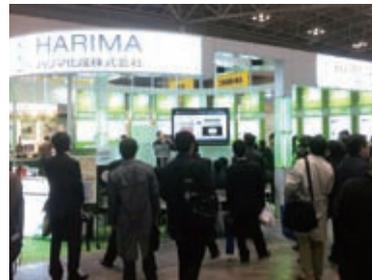


当社ブース

「第40回インターネポコン・ジャパン」に出展

電子材料事業部 2011.1.19~21

年々進むエレクトロニクス機器の高機能化、高性能化を支える最新の製造技術、実装技術に関するアジア最大の専門技術展が東京ビッグサイトで開催され、当社をはじめ国内外から1,149社が出展しました。



当社ブース

電気自動車、ハイブリッド車の普及にともなう車載用部品のさらなる電子化、高機能化が進む中、当社は車載用高信頼性鉛フリーソルダペーストの新製品「GSP」を出展しました。

●Topics

□「東播磨ものづくりリレーセミナー」で社長が講演

2011年2月25日に、兵庫県東播磨県民局・東播磨ものづくり交流会主催の「平成22年度第4回東播磨ものづくりリレーセミナー」が兵庫県加古川総合庁舎で開催され、当社の長谷川吉弘社長が「松の化学（パインケミカル）で世界に挑む」と題して講演を行いました。



講演する長谷川吉弘社長



熱気あふれる講演会場

「パインケミカル」とは何か、原料となる松脂の特性とその採集方法、ガムロジンとトールロジンの製法の違い、ロジンから得られる化学製品とそれぞれの用途などについて、普段、化学に接する機会の少ない受講者の方々にも理解して頂きやすいように、事例を挙げて判りやすく説明しました。又、創業の経緯、トール油事業への進出の決断、事業部制を柱とした社内体制及び今年1月の米国化学会社のロジン関連事業部門の買収などについて順を追って説明しました。

社会とともに

ハリマ化成では財団活動などを通じて、科学技術の振興、芸術、文化活動の支援や人材育成に取り組んでいます。

松籟科学技術振興財団 第28回研究助成金贈呈式

財団法人松籟科学技術振興財団は、播磨化成工業株式会社(現在、ハリマ化成株式会社)の拠出資金をもって設立され、2011年2月までに、延べ537件に対して5億9,248万円を助成しています。

第28回研究助成金の贈呈式は、2011年2月18日に東京で開催されました。全国の大学・研究機関から60件の応募があり、選考の結果16名の方々に研究助成金等(総額1,600万円)を贈呈しました。



第28回研究助成を受けた方々と長谷川理事長(前列中央)

式典では、文部科学省研究振興局の倉持隆雄局長のご祝辞を、振興企画課奨励室の新保敏夫室長からご披露いただきました。受賞者を代表して、京都大学・清水正毅准教授から「過去に受賞された高名な先生達に続くチャンスをいただいたと思っており、これを励みに引き続き研究に取り組んでいきたい」とご挨拶いただきました。その後2007年度研究助成先である東京工業大学・小西玄一准教授から『植物由来のフェノール誘導体を用いた機能材料の開発』と題して研究成果を発表いただきました。

財団法人 松籟科学技術振興財団

設立:1983年3月

所管官庁:文部科学省

基本金:9億8,622万円

ホームページ:www.shorai-foundation.or.jp

松籟(しょうらい) = 松に吹く風。また、その音。

松籟科学技術振興財団の研究助成金贈呈先から2人目のノーベル化学賞受賞者

2010年のノーベル化学賞受賞者には、北海道大学の鈴木章名誉教授と米国パデュー大学の根岸英一特別教授の日本人2人が含まれていましたが、鈴木章名誉教授には松籟科学技術振興財団から1992年に研究助成金が贈呈されております。

2001年に同賞を受賞されました野依良治氏(現理化学研究所理事長)にも1987年に研究助成金が贈呈されており、松籟科学技術振興財団の研究助成金贈呈先から2人目のノーベル化学賞受賞者となりました。

当財団では、将来の科学技術の発展を担い、人類に共通する課題の解決に役立つことを念願して、環境・エネルギー・資源に関する技術の支援や、新しい技術に



1992年助成金贈呈式で目録を受ける鈴木章名誉教授(右)

挑戦する若手研究者を支援できることを願い、これからも研究助成事業を通じて全地球的な科学技術の振興に貢献してまいります。

「川の絵画大賞展」への協賛

当社の創業の地である兵庫県加古川市は、一級河川「加古川」の恵みを受けて発展したことから、1995年に川との共生を考える「全国川サミットin加古川」を開催し、これを機に、全国公募の「川の絵画大賞展」を毎年開催していますが、当社では第1回から協賛を続けています。

東日本大震災の被災地への救援活動

2011年3月11日に発生しました東日本大震災による被災地域への救援物資として、保存の効くカレーやスープの缶詰など合計約2万食分を兵庫県を通じて寄付しました。また、当社仙台工場の所在地である岩沼市などに、燃料、日用生活品、食料品、衣料品などを寄付させていただきました。

犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様ならびにご家族に対して心よりお見舞い申し上げます。そして、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

労働安全衛生への取り組み

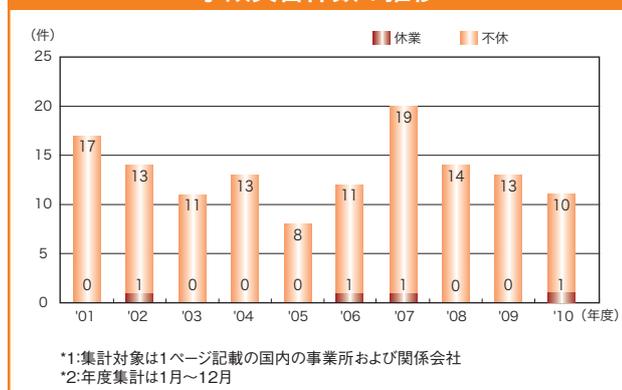
安全をすべてに優先させるという基本理念のもとに、働く人の安全と健康を確保する取り組みを行っています。

安全衛生方針

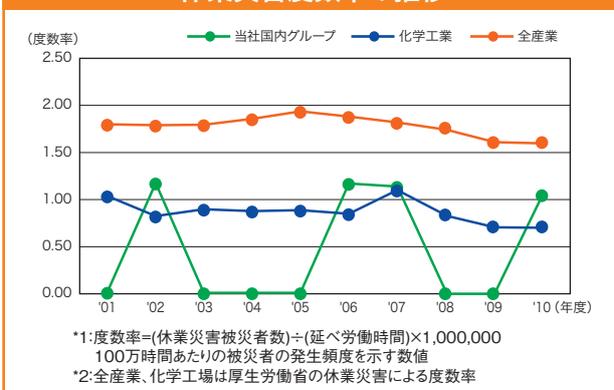
- 1.無事故、無災害を目指し、地域社会と従業員の安全を確保し社会との共存共栄を図る。
- 2.作業環境の改善と設備の本質安全化に努め、労働災害の防止を図る。
- 3.快適な職場環境の形成に努め、健康保持・増進を支援する。

安全衛生方針に基づき、労働災害を撲滅するために安全教育をはじめKYT、ヒヤリハット、安全パトロール、啓蒙活動などのさまざまな運動を行っています。

事故災害件数の推移



休業災害度数率の推移



安全大会、安全講演会の開催

2010年7月5日加古川製造所において、労働災害防止活動の推進と安全意識の高揚と安全活動の定着を図るため安全大会および安全講演会を開催しました。

安全大会では職場ごとの「安全決意表明」、「改善宣言」を所属員全員が力強く発表しました。

安全講演会では、「労働災害、災害事例、リスクアセスメントについて」をテーマに、外部講師により講演していただきました。



安全大会(2010.7.5)



安全講習会(2010.7.5)

安全教育、安全意識の高揚



衛生講習会(2010.10.5)



交通安全講演会(2010.4.9)



呼吸保護具取扱い勉強会(2010.12.15)

その他、2010年度の主な重点実施事項

委員会、役職者による安全パトロールや、研修会、PRニュース発行などの啓蒙活動を行っています。

従業員とともに

従業員は、重要なステークホルダーであり、また会社にとって最大の財産であり、その成長が会社全体の発展につながるという認識のもと、従業員一人ひとりが安心して仕事に全力投球でき、仕事を通して自己実現できる環境の整備に取り組んでいます。

雇用と処遇

□採用

当社では「企業行動基準」の中で、採用にあたって雇用機会均等と多様性を尊重し、人種・宗教・国籍・年齢・性別などによって差別しないことをうたっており、これを基本方針とし、ホームページ、各種広報媒体を活用し応募機会を広く提供しています。

また、中途採用や派遣社員から社員への雇用の転換を進めるなど雇用機会の拡大と雇用の安定に努めています。

また、海外事業拡大を見越し、中国を中心とした外国籍の人材の採用を行ってきており、今後は更に国籍の拡大と採用後のフォロー体制の整備を推進していきます。

□ワークライフ・バランスへの取り組み

当社では、早くから育児休業制度(1992年)介護休業制度(1998年)を導入し、仕事と家庭の両立を支援するための制度を整備しており、2010年度には育児目的の新しい半日休暇制度を導入しました。

また、女性社員キャリア形成研修では、これらの制度を活用したワークライフ・バランスについての研修も実施しています。

<育児休業等の取得実績>

(人)

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
産前産後休暇	1	2	3	0	1
育児休業	1	3	3	2	1
介護休業	0	0	0	0	0

□60歳以降の再雇用制度

企業の社会的責任の履行という側面だけでなく、能力ある人材の確保および定年退職者の生活の安定を図る目的で、2006年4月より、「継続雇用制度」を導入しています。定年退職者が健康で60歳以降も継続して働く意欲がある場合で、かつ一定の条件を満たし会社との合意ができた場合は、最長で厚生年金基礎部分の支給開始年齢に達するまで雇用を継続することができる継続雇用制度を設けています。知識や経験を十分に活かして働きがいを持って就業できると同時に、収入不足に対する不安の解消にも努めています。

□女性の活躍推進

女性の活躍を推進するため、キャリアビジョン策定に向けた女性社員キャリア形成研修を実施しています。

また、スタッフ職から総合職への転換制度を導入し、女性の活躍の場の拡大を推進しています。

□障害者の雇用

障害者の雇用については、通年採用を実施し雇用機会の拡大に努めています。

2010年度障害者雇用率は、派遣社員の直接雇用を推進したことにより従業員数が増大したにもかかわらず2.2%になり、法定雇用率1.8%を上回りました。今後も新卒採用に加え、中途採用も積極的に実施し、雇用機会の拡大に努めていきます。

人材育成

当社では、従業員一人ひとりの能力向上を支援するために教育研修にも力を入れています。特に、フォローアップに注力し、研修の内容を確実に習慣として身につけて「能力」とすることを研修の主眼としています。これらの教育研修を通して、「自己の成長を感じ、働きがいを持って仕事に取り組める」環境づくりを推進しています。

研修プログラムについては、年間実施計画およびその内容を社内のイントラネット上にオープンにし、自己のビジネスプラン形成や部下育成に活用できる体制としています。また、2009年度よりeラーニングを導入し、基礎教育およびテーマ別の教育に活用しています。

今後は、激変する市場変化に対応できるグローバル企業実現のため、「実践的な人材育成」に向け、更なる教育プログラムの強化、導入を実践していきます。

<主な研修プログラム>

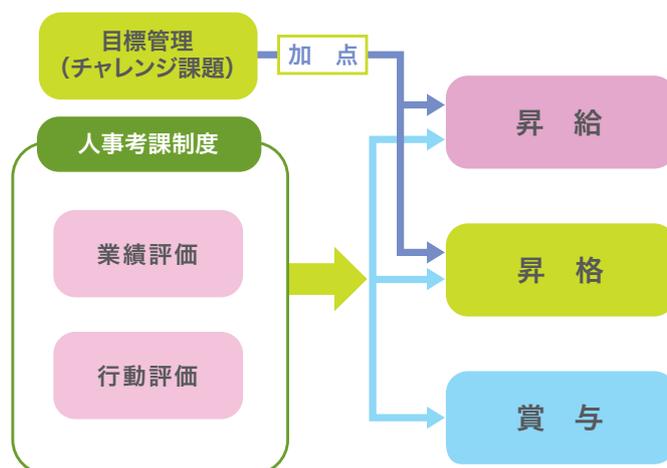
階層別研修(集合教育)	テーマ別研修(集合等)	選抜型研修(派遣)	自己啓発支援
新入社員導入研修 新入社員フォロー研修 リフレッシュ研修(2年目社員) チャレンジ研修(3年目社員) キャリア開発研修(中途採用者) 女性社員キャリア形成研修 昇格候補者研修(監督職、管理職) 昇格者研修(指導職、監督職、管理職) 考課者訓練研修(管理監督者)	ライティングセミナー コーチングセミナー 基本動作研修 eラーニング ・コンプライアンス ・情報セキュリティ ・メンタルヘルス ・安全輸出入貿易管理 等	幹部候補者研修(監督職) 経営幹部候補者研修(管理職)	海外留学制度 国内留学制度 語学留学制度 公的資格取得支援 通信教育 語学研修

人事制度

当社では、次代を担う人材の育成に資する制度として、成果だけでなく、行動評価(プロセス)を評価項目として取り入れ、更にはチャレンジに対して、その努力にも報いる加点主義を基本方針とした透明性の高い人事評価制度を導入しています。

従業員は、役割責任にリンクした行動評価基準により、一人ひとりが担っている職務に対して求められる行動、能力、資質を理解し、自らが育成課題を掲げ、その結果が報酬に反映されます。

また、現在の役割基準を上回るチャレンジ課題に挑戦する制度を設けており、このチャレンジ課題は未達成であっても評価の減点はなく、達成すれば加点する制度として運用しており、果敢にチャレンジできる風土の醸成と人材育成のスピード化を図っています。



成果主義に束縛されず、行動評価とチャレンジ課題への挑戦を通して、働きがいのある環境を整備しています。

また、制度の運用面でも2010年度より、「計画的な人材育成のための人事評価制度の活用」をキーワードに、より実態に則し、効果的な運用ができるよう制度の見直しに取り組んでいます。

福利厚生

当社では、従業員が持てる能力を最大限発揮できる環境をつくり出すための福利厚生制度や、従業員自身が病気になったり、家族の介護が必要になったときなど、いざというときのセーフティネットとなる制度も整備しています。

また、2008年1月よりメンタルヘルスカ制度を導入し、従業員だけでなく従業員の家族も利用できる体制を整えています。

□セーフティネット／長期休業補償制度

従業員が病気やケガで就業できなくなった場合に、収入の減少をカバーし家族の生活をサポートするための制度で、社会保険での補償期間18ヶ月を超えて就業できない状態が継続した場合に、最長満60歳まで収入をカバーする制度です。

本制度では会社が基準給与月額60%を補償し、従業員の任意加入上乗せにより最大で基準給与月額の90%が補償されます。

□健康・医療・メンタルヘルス相談サービス

社員とその家族の体と心の健康の保持・増進と各個人のセルフケアのサポートを目的として、健康・医療・メンタルヘルスに関する相談サービスを整備しています。

本制度では精神的負担の約半分が法律に関連するといわれていることより、法律相談サービスも整えてサービスの充実を努めています。

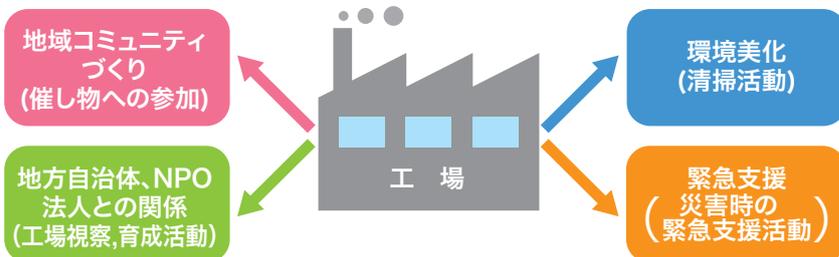
また、2010年4月より全社統括産業医を任用し、統括産業医による教育の充実および専門的なサポートができる体制としメンタルヘルスカに努めています。

地域社会とともに

「地域とともに発展することが企業の使命である」との認識にもとづき、地域の皆様や社員とのよりよい関係づくりを心がけています。

情報開示

工場視察を通して当社の事業活動や環境への取り組みなどを紹介し、社会の一員として、地域の一員として相互理解を深めています。



●地域住民の皆様との交流

□加古川楽市へ出展

2010年9月4日、5日加古川商工会議所青年部が主催する「加古川楽市」が開催されました。

当社は、お子様を対象に松ぼっくりの色づけ体験を行いました。希望者が多くお待ちいただくくらい好評でした。



□卸団地祭りに参加

加古川製造所の西隣にある卸団地で2010年11月13日に祭りが開催され、ハリマ化成商事も出店し、地元の方々と共に秋のひとときを楽しく過ごしました。



●当事業所視察

地域の皆様との交流、相互理解を深めるため事業所視察を実施し、有意義な意見交換などを行っています。

□筑波大学 企業研修会

2010年6月17日に筑波大学大学院のカリキュラムの一環として、筑波研究所において企業研修会が開催されました。

大学院生21名が参加し、パインケミカル事業や電子材料に関する当社技術の紹介と、所内及び関係施設である「つくばイノベーションベース」の見学を行いました。

今後もこのような地域交流を積極的に進め、多くの皆様に当社技術を知っていただき、ハリマファンを増やす機会にしたいと思います。



□加古の里大学 加古川製造所視察



加古川製造所に隣接する公民館において、高齢者大学(加古の里大学)が開設されています。

2010年12月3日に40名の皆様が視察されました。

●育成活動

学生を対象とした工場見学会や職場体験のためのインターンシップなどを実施しています。



加古川製造所(2010.6.7~6.11)
中学生を対象とした職場体験研修



富士工場(2010.6.9~6.10)
高校生を対象としたインターンシップ

●清掃活動

自ら主催する活動のほか、地域が主催する活動にも参加しています。



加古川製造所(2010.5.21)

保安防災への取り組み

防災への対応を怠らず、日常業務の中で企業防災を心がけています。

東日本大震災の影響

3月11日の東日本大震災は、東北・関東地方に甚大な被害をもたらしました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様ならびにご家族に対して心よりお見舞い申し上げます。そして、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

□従業員及びその家族の安否

3月11日の発生直後は仙台工場の従業員家族2名の安否確認ができていませんでしたが、14日に1名が、15日には残りの1名の安否確認がとれ、従業員及びその家族全員の無事が確認できました。

ライフラインは、最も被害の大きかった仙台工場では、電気、ガスが15日に、水道は23日になってやっと復旧しました。この間、食料、水、生活用品、燃料などの生活物資が全く手に入らない状態で、3月15日に東京工場から第1便が、加古川より第2便、第3便と支援物資を輸送しました。仙台工場に届いた生活物資は、従業員ならびに市・町内会に分配しました。

また、茨城工場でも燃料、電池の入手が困難になったため、3月19日にこれらの支援物資を輸送しました。

□設備の被災状況および復旧状況

・仙台工場（宮城県岩沼市）

- 1) 製品タンク1基が基礎との固定部分が外れそうになった。(右写真)
- 2) 工場北側のブロック塀が倒壊した。
- 3) 流量計などの継ぎ手部分から少量の残存薬品が漏れた。
→4月18日復旧し、操業を再開しました。

・茨城工場（茨城県稲敷郡阿見町）

- 1) 原料計量槽2基のロードセル及びホッパー用集塵機ラインが破損。
→3月29日復旧し、操業を再開しました。



TK201の蓋み状態
内部に封鎖用のガスが
が入っている。
地震時このタンクが左右に
大きく揺れた。
その影響で下部の蓋みが
発生している。

防災訓練

当社内の防災訓練は各拠点において毎年実施しており、拠点に応じたより実践的な内容で行っています。また、防災グッズを全社員に配布し災害時に携帯するように徹底しています。

□仙台工場 緊急時対応訓練(2010.6.28)

緊急時地震速報受信装置を活用し、地震対応・初期消火・救助訓練を実施しました。

昨年の問題点を改善したことにより、前回よりも短時間で作業ができました。

今回もさらに課題を洗い出し、改善に努め、今後も複合的な訓練を実施して、一人ひとりの対応力の向上をめざします。



□北海道工場(2010.5.31)

緊急地震速報受信装置による地震速報(訓練デモ)を合図に作業を一旦停止、身の安全を確保、揺れが収まったのを確認して緊急避難場所に全員集合し、人員と被災ヶ所の確認を行いました。

訓練終了後の反省点で、構内放送が聞こえにくい場所もあり、スピーカーを増設しました。



□茨城工場(2010.12.6)

阿見町消防本部のご協力の下、総合防災訓練を実施しました。昨年の訓練内容からさらにレベルアップさせ、より実践に近い形で訓練することができ、段取りよく訓練を終了することができました。

今回は、消防本部の方よりAED取扱い方法および使用時の注意点などの説明とともに実技指導をしていただきました。今後も総合防災訓練を通じて災害対策意識の高揚を図っていきます。



□富士工場(2010.7.27)

東海地方で震度7強の地震が発生したという想定のもと、「通報連絡」、「救急」、「防護措置」、「消火」の各係を組織し、関係機関への連絡、負傷者の救出・応急手当、液状製品・原料の流出防止措置、火災の初期消火等の訓練を実施しました。

今回は富士市の消防署のご協力により、煙ハウスにおいて煙が充満した中では、わずか数十センチ先が見えなくなること、実際の火災では炎や高熱等が加わりパニックになりかねない状態を体験しました。

